

視察報告書

- 1 視察日時 令和 3年 7月28日13時30分 ~15時00分
- 2 視察先 真庭市議会
(赤磐市役所3階議会協議会室にてZoomを使用したオンライン視察)
- 3 視察目的 ICT活用による議会運営の迅速化・効率化について
- 4 視察参加者 ・光成 良充・永徳 省二・松田 勲・治徳 義明・牛尾 直人
- 5 視察概要 議会改革検討委員会で議長から諮問のあった議会へのタブレット端末の導入及び運用方法について、検討を進めるにあたり、導入に至るまでの経緯・検討事項、導入費用、導入することによるメリットデメリットなどについて、先進議会の状況を確認するため、すでにタブレットを導入し議会運営等で活用している真庭市議会を視察することとした。
視察では、下記の項目について説明を受けた後、質疑応答を行った。
 - ・タブレット導入を決めた経緯
 - ・導入により期待できる効果、導入した端末
 - ・使用するソフト（文書共有、情報共有、カレンダー機能）
 - ・議会運営方法
 - ・導入に掛かる事業費
 - ・費用対効果の検討
 - ・タブレット使用の規程、ルール化
 - ・導入前と導入後の変化
 - ・真庭市議会タブレット端末の仕様等に関する規定、等
- 6 所感 どれだけ優れたシステムを導入しても、それを適切に使いこなすことができなければ、本来の効果は発揮されない。
タブレット導入にあたっては、すべての議員がタブレット端末の操作方法を熟知し、適切に使用することで、はじめて十分な導入効果が得られることになるが、議員毎に、通信機器の使用に関し得手不得手は紛れもなく存在している。そのため、タブレット導入に踏み切れない議会も多数あるように耳にする。
その点において、真庭市議会では、最年長の議員が自らパソコン教室に通うなど、議会全体として非常に強い覚悟をもってタブレット導入を進めたことが伺えた。
今回、真庭市議会で学んだことを参考に赤磐市議会独自の検

討事項等も模索し、導入に向けてより良い検討を行い、最少の費用で最大の効果が出るよう、また、利用するにあたり使用する者がしっかりと使いこなせるように考えていくべきと思う。

7 その他

視察で行った主な質問

- ・通信料について、議員分個人負担1/2、政務活動費1/2をどのように検討したのか。
- ・電子データとして共有している資料の範囲と、その決定過程について（ペーパーレスにしているもの、していないものの使い分けがあれば、その考え方は）
- ・端末の調達方法は買取りかリースか。そうした理由は。
- ・使用範囲はどこまで認めているのか。（議会活動、議員活動、政務活動、私用）また、議会活動以外での使用を認めている場合、なんらかのルールを設けているのか。
- ・資料を電子データ化して保存する部署はどこか。（執行部、議会事務局）
- ・ICTが苦手な議員について、フォローはどのようにしているのか。また、現在は支障なく使いこなすことができているのか。
- ・議会事務局・執行部の負担軽減、環境負荷軽減について、具体的数値を算出しているか。等

以上